

超絶きれいなコ
味わっちゃうぜえ！

ピンク色ですからー！！

人生最高綺麗な『薄ピン
狂ったように舐め、しゃ

『うんめええ〜〜〜

べちやべちやべちや・ち
べろん・べろん・じゅる

新作爆乳美少女ミサ4

お試し読み

ミサの可憐で美しい局部なら、舐めオヤジでなくとも
男なら誰でも、よだれを垂らして舌なめずりすることだろう。

◆第20章

味わう《薄ピンクの秘肉》

正雄は、そのままズリズリとミサの股の下まで下がっていく……。

『国宝級のこれを押んでおかないとなあぁぁぁ!!』

そしてミサの股間を両手で広げながら下から覗き上げ、
歓声を上げる!!』

『ひゃあぁぁぁ!!…出たあぁぁぁぁ!!』

『かわいいいゝゝゝゝゝ!!』

『やっぱちっちゃいなあぁぁぁぁ!!』

『毛ないしいゝゝゝゝゝ!!』

『綺麗だあぁぁぁぁ!!』

正雄の顔の上でガニ股開きの恥ずかしい格好をさせられ、
恥部を覗き込まれるミサ。

その様に我に返ったミサ、羞恥に悲鳴を上げ腰を振るのだった。

『いや!いやあぁぁぁぁ!!』

『こんなのいやあぁぁぁぁ!!』

出たあぁぁ

ちっちや!

正雄はさらに両手指で、
小さなヒダを文字通り「くぱあ~~~~!!」つと開いて、
全てをさらけ出す!!

《薄ピンク色》の綺麗な色をした内臓が丸出しになった!!

本当に綺麗だ！！

今までの人生で、こんな綺麗なのは見たことがない!!
何度見ても感激してしまう!!

『ひゃあああああ~~~~~!!』

正雄は大口を開けたまま、しばし感激して見入ってしまう……

そして更に嬉しいのは、そこはもう、びしょびしょ・にゆるにゆるに濡れ光っていて、お汁をたっぷりと蓄えていた…

『ミサちゃん、奥まで丸見ええくくく!!』

『ひゃあぁ~~~~ベッチョベチョだねえ~~~~!!』

『いや！いや！見ないでええええええええええ！！』

すると、ヒダを開かれたことで

たっぷり溜まったお汁が、たら~~~~つと垂れ溢れてくるのではないか!!

『ひゃあああ~~~~す・すげええ~~~~!!』

『ミサちゃん、やらしいお汁垂れてきたあ~~~~!!』

『やあああ~~~~ん!!』

『いや・いやああ~~~~!!』

ミサが羞恥して嫌がり悶えると、

さらけ出された《薄ピンクの内臓》もクニユクニユと卑猥に動くのだった!!
そして汁が更に、たらたら~~~~つと垂れ流れた!!

『お・ほ・ほ~~~~!!』

正雄の欲情は頂点に達してしまう……!!

『ああ~~~~、ミサちゃん良すぎるう~~~~!!』

もう辛抱たまらず、

よだれいっぱい舌を伸ばしてしゃぶりついていく正雄……

べえええ~~~~…

べちよべちよべちよ~~~~!!

お・た・ま・ん!!
あ・ん・た・ま・ん!!
あ・ん・た・ま・ん!!
あ・ん・た・ま・ん!!

ヤあ!!
ビクン

『あひゃああ~~~~~ん!!』

悲鳴を上げてビクン!!と仰け反るミサ。

『やあ!!やあ!!いやああ~~~~~ん!!』

腰を上げて逃げようとするミサだが、
そうはいかない。

その両腿を抱えて顔にグイッと引き寄せ逃さない!!

ベチヨ・ベチヨ・じゅるる~~~~~!!

『うんめええ~~~~~ん!!』

『ミサちゃんのお汁うんめええ~~~~~ん!!』

ベロン・ベロン!・べちよべちよ~~~~~!!

『《薄ピンクのお●んご》うんめええ~~~~~ん!!』

『かわいい~~~~~ん!!』

『うっひよおお~~~~~ん!!』

うっひよ
かわい
うっひよ

もう夢中になって舐めしゃぶる【舐めオヤジ】

正雄は、自分のよだれまみれに汚しながら舐めしゃぶることが大好きだ!!
可憐な唇も舌も、乳もお●んこも、
欲情するものは、そうやって舐めしゃぶらないと気が済まない。

もう「ねぶり味わう」といった感じで、

ヒダの隅から隅まで舌が入り込んで動き回る。

人生最高綺麗な《薄ピンク色の秘肉》に

狂ったように舐め、しゃぶり、吸いまくる……

『うんめええ~~~~!!』

べちゃべちゃべちゃ・ちゅうう~~~~!!

べろん・べろん・じゅるじゅる~~~~!!……!!

ミサの可憐で美しい局部なら、舐めオヤジでなくとも

男なら誰でも、よだれを垂らして舌なめずりすることだろう。

どこもかしこも色素沈着の全くない美しい色。
尻の穴まで可憐で美しい!!
正雄はそこまでも舌を伸ばしていく……

『いや・いや!! そんなとこ嫌あ~~~~!!』

ミサが嫌がれば嫌がるほど激しく舌を動かして、
決して許しはしない。

尻穴の中まで舌先で犯そうとする正雄だった。

『あん!! だ・だっめえ~~~~!!』

狂ったように舌を動かし、尻も局部もベチョンベチョンに舐め回す正雄!!

ミサは大きな悲鳴を上げて嫌がり泣くが、決して離してはもらえない。
もうミサの股間中が、よだれと汁でベチョベチョに濡れ光る!!
しつこく長い局部舐めに、ミサは身体中を震わせて耐える……

べちゃべちゃ・ちゃぷちゃぷ・じゅるじゅる・ちゅうう~~~~!!
卑猥な音が響き続ける……

さんざんねぶり味わうと、

一旦顔を離して、その美しい秘肉を目を細めて眺める…
そしてまた感極まり、むしゃぶりついていくオヤジ…

こんな風に何度も何度も、しつこく、えげつなく、
『美味しい!! 美味しい!!』と

美少女の秘部に欲情をぶつけまくる幸せオヤジ…
頬をよだれがだらだら垂れ落ちていく…

クリ●リスも皮を剥いて、
剥き出しにされた小っちゃな突起に舌を絡め、
レロレロ・クニユンクニユン! っとこねくり回してから
ちゅうう~~~~!! っと強く吸い込む!!

『《可愛いクリ●リス》の何と美味しいことか!!』

吸い取って飲み込んでしまいたいくらい可愛い!!

もう夢中で吸い続ける正雄…

べちゃべちゃべちゃ・ちゅうう~~~~~!!
れろれろろ・じゅる・ちゅうう~~~~~!!...

何度目か、思いっきりしゃぶり吸った時、
正雄の顔の上でミサが「ビツツクン!!」

「ビクククウ~~~~~ツ:~」っと大きく跳ね、痙攣した!!

するとミサの秘部から、

トロトロ~~~~~と汁が垂れ流れてきた:

正雄はそれを口で受け止め、

歓喜してすすり吸うのだった。

『ひゃああ~~~~うんめええ~~~~!!』

『俺のイキ汁~~~~!!』

『し・幸せええ~~~~!!』

限界まで怒張している肉棒が、
ビツクン!!ビツクン!!っと快感に跳ね動く:

『あああ、もう、あかあ~~~~ん!!』